

土木史研究レビュー

都市計画

越 沢 明

1 通史

1988年は近代日本都市計画法制100年、1989年は市制100年であった。この結果、都市計画史、都市史に対しての関心が高まったことは都市計画史の研究の発展にとって良かったことといえる。

一般に研究レビューは学会誌掲載の論文に重点を置いていることが多い。しかし、都市計画史にとってはむしろ行政の刊行物など視点を広げてレビューをした方が研究者やこの分野に関心を持つ人々にとって有益であると思われる。そこでこのような方針で以下、レビューを行うことを御理解いただきたい。

1987年に著者が欧州に滞在したとき、ベルリンでは丁度、市誕生 750周年記念事業を行っていた。マルティン・グロピウス・バウにおけるベルリン史展は見事なものであり、広い会場で実に多種多様なベルリン史の刊行物が販売されているのに感激し、私は大量の本を買いあさり、その重さに両手がしびれながらホテルに帰った思い出がある。

その中にはホープレヒトの都市計画図のリプリントも含まれている。このベルリンの多数の刊行物と比較すると、日本の研究と出版状況は立ち遅れている。その中であってこれまでにない成果がいくつか出現するようになった。

近代日本都市計画史について個人の手になる通史と呼べるものが出版された。それは石田頼房の『日本近代都市計画の百年』¹⁾である。1988年の近代都市計画法制 100年に際して、雑誌の特集号²⁾が組まれたものの、建設省や学会によって本格的な都市計画通史の編集が全然なされなかったことは誠に残念である。

通史的な研究としては、新谷洋二³⁾は“都市を造った男たち”というタイトルで人物に焦点を当て、近代日本都市計画史について論じている。また、越沢明⁴⁾は昭和期についてこれまでの日本建築学会の通史とは異なる視点で簡明に述べている。また、篠原修は景観工学の観点から独自の見解を表明している⁵⁾。

特定都市の通史としては、石田頼房を中心とする東京都立大学都市研究センターが東京をテーマとして通史的研究論文集⁶⁾を刊行し、同時に英訳版も作成された。

また、大正期以降の東京都市計画史について、越沢明が一連の研究を公表している⁷⁾。

市制 100年に関連して横浜と大阪では有意義な刊行物が出されている⁸⁾。『横浜都市と建築の百年』は市役所の中堅・若手の有志によって執筆されたものである。

『建築のルール・大阪 100年の歩み』は齊藤和夫、片倉健雄、赤崎弘平らのグループによって執筆されたものである。前者は図版が多数含まれた建築、都市史、後者は中身の濃い建築行政史である。横浜、大阪ではそれぞれほぼ同じ執筆陣による土木史⁹⁾、住宅史¹⁰⁾も刊行されており、両都市における刊行物の蓄積は日本はずば抜けた存在である。

市制100年に関連して土木学会は横浜、名古屋、神戸、札幌、北九州の土木100年のあゆ

みについて図集を編集したが、これは都市計画史としても貴重な資料である¹¹⁾。

ひとつの都市の都市計画史の研究書はこれまで皆無であったが、越沢明は日本の旧植民地の新京、ハルビンについてそれぞれ著作を公刊した¹²⁾。前者は土木学会賞(著作賞)を受賞している。

2 分野別の通史

都市計画の分野別の通史の研究成果が出始めた。

街路については、篠原修¹³⁾ が街路景観形成を視点に置きながら明治から今日に至るまでの設計思想史を論じている。篠原修はまた、首都高速道路の設計思想、都市計画における路地の役割について研究成果を発表している。

堀江興は東京の街路計画、幹線街路形成について一連の研究を公表し、東京工業大学より学位を授与された¹⁴⁾。

越沢明¹⁵⁾ は広幅員街路(ブールバール)の通史について明らかにした。また古田崇¹⁶⁾、為国孝敏¹⁷⁾ は駅前広場計画の変遷について研究を公表している。

公園については、日本公園緑地協会の五十年史¹⁸⁾ に公園行政史が執筆されている。1988年に死去した前島康彦を追悼して、「都市公園」誌に30年間連載された「東京公園史話」¹⁹⁾ が刊行された。これは前島ならではの好著である。

再開発については、1989年の都市再開発法公布20周年を記念して高山英華を長とする編集委員会が発足し、多数の執筆者の協力によって『日本の都市再開発史』が1991年に刊行された²⁰⁾。これは再開発に焦点をあてた都市計画の通史である。

区画整理については1969年に組合区画整理史が刊行されたのみであり、公共団体施行を中心にした区画整理史の編集が待望される²¹⁾。

区画整理のうち、これまでその実態が不明であった超過収用タイプの建築敷地造成事業について鈴木栄基が一連の研究を公表し、東京大学より学位を授与された²²⁾。

渡辺貴介、安島博幸²³⁾ を中心とする研究グループは日本のリゾート、別荘地の形成・展開について一連の研究を公表している。

行政史、行政資料の編集については、いくつか見るべき成果があがるようになってきた。行政史、法人史は県制100周年や組織の成立の何十周年を記念して編集されたものが多い²⁴⁾。この中でも『京都市建設局小史』²⁵⁾ はタイトルに似合わず、すぐれた内容である。また神奈川県では都市計画史の資料を発掘し、5冊の資料集を刊行した²⁶⁾。

都市計画で長く活躍した先輩の同想録、伝記はすぐれた史料となる。現役で活躍中の高山英華、井上孝、久保田誠三、長老の財津吉史の他²⁷⁾、前島康彦の執筆により飯沼一省の伝記が刊行された²⁸⁾。

3 時代別にみた研究レビュー

次に時代順に研究成果をレビューしよう。明治・大正期について建築法制史の研究がかなり蓄積されてきた。まず田中祥夫²⁹⁾ は明治前期の長屋建築規則など建築法制の成立過程について精力的に研究成果を公表し、早稲田大学より学位を授与された。また加藤仁美³⁰⁾ は住宅地の道路規定について研究をまとめている。

田島二郎、新谷洋二、伊東孝、昌子住江、窪田陽一³¹⁾ は図谷見附橋をテーマとしなが

ら明治期の街路・橋梁の計画思想を解き明かしている。この著書は国際交通安全学会賞を受賞した。

大正期の都市計画法成立前後の事情やこの時期の主要人物について、渡辺俊一³²⁾が近年の研究を建築研究報告に取りまとめている。加藤仁美³³⁾は市街地建築物法の道路規定について研究している。

帝都復興事業については、越沢明³⁴⁾が後藤新平の当初計画図を66年ぶりに初めて公表した。昌子住江³⁵⁾は復興事業の河川・運河計画について一連の研究を発表し、東京大学より学位を授与された。また、進士五十八³⁶⁾は生活史的研究という特色ある視点で復興公園について研究を進めている。

戦時体制に入る前までの時期について、越沢明³⁷⁾は1930年代の北海道の主要都市の計画思想について、坂口美和³⁸⁾は昭和9年函館大火の復興計画について研究成果をまとめている。昭和初期の宅地開発誘導の手法としてかなりの効果があった建築線については、石田頼房、池田孝之³⁹⁾が研究成果を公表した。

一方、都市計画の制度、プランの研究とは別に住宅地の形成についてはかなりの研究蓄積がまとめられている。佐藤滋⁴⁰⁾は同潤会から戦後の都営住宅まで東京の集合住宅団地について研究成果をすぐれた著書に取りまとめている。また建築史のグループ⁴¹⁾は東京の郊外住宅地について著書を公刊している。また、郊外住宅地のデザインについて越沢明⁴²⁾の研究がある。一方、関連分野の研究として、本間義人⁴³⁾は戦前の住宅政策史について著書を公刊している。

戦時期の防空都市計画について実証的研究が出始めた。後藤健太郎⁴⁴⁾は名古屋についてすぐれた研究を発表している。石丸紀興⁴⁵⁾は広島について防空都市計画、建物疎開の実態を丁寧に掘りおこし戦後の影響について研究している。また、昭和20年8月に発行されるはずであった木村英夫⁴⁶⁾(内務省防空都市計画の中心スタッフ)の幻の著作が復刻された。

軍都計画(新興工業都市)については、大和に関しては越沢明⁴²⁾の研究がある。多賀(日立市)に関しては笹谷康之⁴⁷⁾の研究がある。

戦災復興計画についても記録や実証的研究がかなり出るようになった。中村良夫、篠原修、越沢明、天野光一⁴⁸⁾の報告書の他、研究者と行政の合作による好著が広島市、長岡市で公刊されている。前者は石丸紀興、後者は松本昌二、会田洋を中心にして編集されたものである⁴⁹⁾。

戦災復興事業の完成を記念して大阪市、名古屋市等では事業誌が刊行されているが、これらは都市計画史の研究上、貴重な第一次資料である⁵⁰⁾。

最近、土地問題などからみて隣国の韓国、台湾の都市計画、土地政策について関心が高まっているが、両国の都市計画制度は戦前の日本統治期の都市計画に由来しているものが多い。韓国、台湾ではそれぞれ両国を代表する研究者によって戦前の都市計画史について研究成果が公表されている。孫禎睦(ソウル市立大学教授)は長年の研究を『日帝独占期都市計画研究』⁵¹⁾として公刊し、韓国の権威ある学術賞を受賞している。また、黄世孟(国立台湾大学教授)は台湾都市計画史研究に取り組んでおり、一連の成果⁵²⁾を公表している。また、越沢明の研究は台湾、中国で翻訳されている⁵³⁾。

戦後の都市計画に対しては未だ本格的な研究はなされていないが、行政自身の自己評価

として自らの施策展開について取りまとめる例が出始めており、これは当事者による都市計画史の刊行物として有意義なものである。筆者の知る範囲では川崎市⁵⁴⁾の住宅行政、横浜市の⁵⁵⁾の都市デザイン行政、広島市⁵⁶⁾の都市美行政について好著が出されている。広島の河岸緑地の修景事業は中村良夫が指導したが、『広島—都市美づくりこの10年』はシビックデザインの大学教育の副読本として使用できるすぐれた著作である。

戦後の日本のニュータウン、大規模な開発プロジェクトについては事業完了後、事業誌が刊行されているものがあり、これらは将来、貴重な歴史的資料となるであろう⁵⁷⁾。

近年、土木事業の歴史的遺産に対する関心が高まっている⁵⁸⁾。都市においては土木事業のかなりのものは都市計画に基づいており、この点からも今後の都市計画史研究の発展が期待されよう。

(注) 本稿は『都市計画』165号、1990年の拙稿に加筆・修正を加えたものである。

4 文献リスト

- 1) 石田頼房『日本近代都市計画の百年』自治体研究社、1987年。石田頼房『日本近代都市計画史研究』柏書房、1987年。石田頼房「日本における土地地区画整理制度史概説 1870～1980」『総合都市研究』28号、1986年。
- 2) 『新都市』1988年11月号、特集都市計画の歴史と展望。『建設月報』1988年11月号、特集都市計画の歩み。
- 3) 新谷洋二「近代都市計画の始まり、銀座煉瓦街計画」『都市みらい』創刊号、1989年。
新谷洋二「都市計画制度の創設、東京市区改正条例の制定」同、第2号、1989年。
新谷洋二「都市計画法の制定と帝都復興計画の事業実施」同、第3号、1989年。
新谷洋二「戦災復興計画の立案、東京における計画と事業」同、第4号、1989年。
新谷洋二「名古屋のまちづくり、戦災復興計画とその事業」同、第5号、1990年。
- 4) 越沢明「戦時期の住宅政策と都市計画」、近代日本研究会編『戦時経済』小川出版社、1987年。
- 5) 篠原修「都市のイメージ骨格形成と土木—東京を例して」『土木学会論文集』415号、VI-12、1990年。
- 6) 東京都立大学都市研究センター『東京 成長と計画 (1868～1988)』1988年。
- 7) 越沢明「東京都市計画の思想 — その歴史的考察」『思想』801号、1991年。
越沢明「水辺のプロムナード 隅田公園」『地域開発』308号、1990年。
越沢明「幻の環状三号線 — 戦災復興計画の挫折とその遺産」『地域開発』312号、1990年。
越沢明「宮城外苑 — シビックランドスケープの思想」『地域開発』317号、1991年。
越沢明「東京のグリーンベルト構想の経緯」『新都市』1990年11月号。
越沢明「新宿西口の都市改造・新宿副都心のルーツ」『地域開発』319号、1991年。
- 8) 横浜市建設局『横浜 都市と建築の百年』1989年。
大阪建築法制100周年記念誌編集委員会『建築のルール、大阪100年の歩み』大阪府建築士会、1988年。
- 9) 横浜市都市計画局都市デザイン室『都市の記憶—ここはまの土木遺産、横浜市の土木遺産』横浜市、1988年。

- 10) 西川幸治編『まちに住まう 大阪都市住宅史』平凡社、1989年。
- 11) 博物館明治村編『特別展みなとー横浜・名古屋・神戸 土木100年のあゆみ』名古屋鉄道株式会社、1988年。同編『特別展まちー札幌・名古屋・北九州土木100年のあゆみ』名古屋鉄道株式会社、1989年。
- 12) 越沢明『満州国の首都計画ー東京の現在と未来を問う』日本経済評論社、1988年。
越沢明『ハルピンの都市計画』総和社、1989年。
- 13) 篠原修「日本の街並と近代街路設計」『土木学会誌』69巻8号、1984年。
篠原修「首都高速道路の景観評価の変遷」『建築雑誌』1291号、1989年。
篠原修「文化遺産としての道」『都市と交通』16号、1989年。
篠原修「首都高速道路の計画と設計思想」『都市の景観形成と首都高速道路』日本文化会議、1984年。
- 14) 堀江興「東京の戦災復興街路計画の史的研究」『土木学会論文集』407号、IV-11、1989年。堀江興「東京の幹線道路形成の史的研究——昭和初頭～昭和20年代を中心として」『都市計画』別冊第17号、1982年。
堀江興「東京の市区改正条例（明治時代）を中心とした幹線道路形成の史的研究」『土木学会論文集』327号、1982年。
堀江興「東京の幹線街路形成の市的研究——大正の震災復興計画を中心として」『土木学会土木計画学研究発表会講演集』1982年。
堀江興「東京の幹線街路形成の史的研究——東京市区改正条例を中心として」『土木史研究』第1号、1981年。
堀江興「東京の幹線街路形成に関する史的研究（学位論文）、1990年。
- 15) 越沢明「日本における広幅員街路とブルバールの計画・設計思想史」、中村良夫・篠原修・越沢明・天野光一『文化遺産としての街路』国際交通安全学会、1989年。
- 16) 古田崇・天野光一「駅前広場空間の設計思想及び手法に関する史的研究」『土木史研究』第10号、1990年。
- 17) 榛沢芳雄・為国孝敏「東京の駅前広場計画の変遷」『土木史研究』第9号、1989年。
- 18) 日本公園緑地協会『日本公園緑地協会五十年史』1986年。
- 19) 前島康彦『東京公園史話』東京都公園協会、1989年。
- 20) 全国市街地再開発協会『日本の都市再開発史』1991年。
- 21) 全国土地区画整理組合連合会『土地区画整理組合誌』1969年。
- 22) 鈴木栄基「戦前における建築敷地造成土地区画整理の実態とその考察」『都市計画』151号、1987年。
鈴木栄基「市街地改造法の成立と超過収用制度」『都市計画論文集』24号、1989年。
鈴木栄基「1919年都市計画法における建築敷地造成土地区画整理制度の成立に関する研究」『日本建築学会計画系論文集』408号、1990年。
鈴木栄基「日本近代都市計画史における超過収用制度に関する研究」（学位論文）、1991年。
- 23) 十代田朗・渡辺貴介・安島博幸「明治・大正期における湘南および房総地域の臨海部別荘地の成立過程」『都市計画』別冊第20号、1985年。
西村真・渡辺貴介・安島博幸「我が国近代リゾート地の発展過程に関する研究」『土

- 木史研究』第6回、1986年。西村真・渡辺貴介・安島博幸「我が国近代高原リゾートの成立と展開」『都市計画』別冊22号、1987年。
- 武井裕之・渡辺貴介・安島博幸・天野光一「江戸、明治期の温泉地における長期滞在の構造に関する研究」『都市計画論文集』第24号、1989年。
- 上垣智弘・安島博幸「六甲山における外国人別荘地の成立と展開」『都市計画論文集』第25号、1990年。
- 勝又宏幸・安島博幸「戦前の御殿場における高原リゾートの成立と展開」『都市計画論文集』第25号、1990年。
- 24) 例えば、宮城県土木部『宮城の土木史』1972年。兵庫県土地区画整理協会『兵庫県土地区画整理史』1983年。首都高速道路公団『首都高速道路公団三十年史』1989年。
- 25) 建設局小史編さん委員会『建設行政のあゆみ ― 京都市建設局小史』京都市建設局、1983年。
- 26) 越沢明編『神奈川県都市政策史料』第1集～第5集、神奈川県都市部都市政策課、1985年～1989年。
- 27) 高山英華『私の都市工学』東京大学出版会、1987年。
井上孝『都市計画の回顧と展望』井上孝先生講演集刊行会、1989年。
久保田誠三『都市への想い』私家版、1989年。
財津吉史『心の鉦をうち鳴らしつつ』私家版、1985年。
都市計画協会『都市計画のパイオニアの歩み』、1986年。
- 28) 飯沼一省先生業績編集委員会『飯沼一省』都市計画協会、1989年。
- 29) 田中祥夫「明治19～20年、東京府による長屋建築規則案の不成立におわる経緯とその理由について」『日本建築学会計画系論文報告集』390号、1988年8月。
田中祥夫「一連の長屋・家屋建築規則と地方におけるその制定への取組について」同、399号、1989年5月。
田中祥夫「明治10年代、内務省衛生局による建築法制の推進について」同、405号、1989年11月。
田中祥夫「明治前期における建築法制に関する研究 ― 長屋・家屋建築規則の成立過程」（学位論文）、1991年。
- 30) 加藤仁美・石田頼房「明治期の建築規則等における道路・通路規定についての考察」『日本建築学会計画系論文報告集』367号、1987年9月。
加藤仁美「明治前半期の東京における私設道路の基準設定と実態との関わりについて」の研究」同、387号、1988年5月。
- 31) 新谷洋二他『ネオバロックの灯四谷見附橋物語』技報堂出版、1989年。
- 32) 渡辺俊一「片岡安の都市計画論とその成立過程」『都市計画』別冊第20号、1985年。
渡辺俊一「法案条文からみた旧都市計画法の成立過程」『都市計画』別冊第21号、1986年。
渡辺俊一「旧都市計画法の成立過程における『大阪市街改良法草案』の位置」『都市計画』別冊22号、1987年。
渡辺俊一『旧都市計画法の成立過程』（建築研究報告、第122号）建設省建築研究所、1988年。

- 33) 加藤仁美「市街地建築物法における道路規定の成立経緯に関する考察」『都市計画論文集』24号、1989年。
- 34) 越沢明「後藤新平と震災復興計画」『東京人』1989年8月号。
越沢明「発見された後藤新平の帝都復興計画図」同、1989年9月号。
越沢明解題『帝都復興事業完成図1930年の東京』土木学会土木史研究委員会、1990年。
- 35) 昌子住江「明治初期の河岸地に関する制度と利用状況について」『土木史研究』第7号、1987年。
昌子住江「震災復興事業における河川・運河計画」『土木史研究』第9号、1989年。
昌子住江「東京の都市計画と河川・運河に関する歴史的研究」（学位論文）、1991年。
- 36) 進士五十八・吉田恵子「震災復興公園の生活史的研究」『造園雑誌』52巻3号、1989年。
- 37) 越沢明「函館、札幌、帯広の都市計画1930・40年代の計画思想の発展」『土木史研究』第9回、1989年。
- 38) 坂口美和・室崎益輝・大西一嘉「昭和9年函館大火の復興計画に関する研究」『都市計画』別冊23号、1988年。
- 39) 石田頼房・池田孝之『「建築線」計画から地区計画への展開』東京都立大学都市研究センター、1984年。
- 40) 佐藤滋『集合住宅団地の変遷 東京の公共住宅とまちづくり』鹿島出版会、1989年。
- 41) 山口広編『郊外住宅地の系譜 東京の田園ユートピア』鹿島出版会、1987年。
- 42) 越沢明「デザインされた住宅地 常盤台」『地域開発』310号、1990年。
越沢明「大和の都市計画 — 林間都市と軍都計画」『大和市史研究』第14号、1988年。
- 43) 本間義人『内務省住宅政策の教訓』御茶の水書房、1988年。
- 44) 後藤健太郎「名古屋市における戦前の防空対策が都市計画に及ぼした影響」中部工業大学修士論文、1990年。
- 45) 石丸紀興「建物疎開事業と跡地の震災復興に及ぼした影響に関する研究」『都市計画論文集』24号、1989年。
- 46) 木村英夫『都市防空と緑地・空地』日本公園緑地協会、1990年。
- 47) 山形耕一・小柳武和・笹谷康之・遠藤毅「街路形成にみる日立市の都市計画の変遷」『土木史研究』第5号、1985年。
笹谷康之他「戦中期における多賀町の都市計画」『都市計画』別冊第20号、1985年。
- 48) 中村良夫・篠原修・越沢明・天野光一『文化遺産としての街路』国際交通安全学会、1989年。
- 49) 広島都市生活研究会編（石丸紀興委員長）『広島被爆40年史 都市の復興』広島市企画共生局文化担当、1985年。
長岡市史編集委員会現代史部会『戦災都市の復興』市史双書No.7、長岡市、1990年。
松本昌二・宮腰和弘・会田洋・熊倉清一「長岡市の戦災復興都市計画の史的研究」『土木史研究』第10号、1990年。
- 50) 例えば、名古屋市計画局『戦災復興誌』1984年。
仙台市開発局『仙台市戦災復興誌』1981年。
大阪市都市再開発局『甦えるわが街 — 戦災復興土地区画整理事業（都島地区）』1980年。

- 51) 孫禎睦『日帝独占期都市計画研究』ソウル、一志社、1990年。
- 52) 黄世孟編訳『台湾都市計画講習録』国立台湾大学土木工学研究所、1987年。
黄世孟『台湾都市計画史年表(1895～1945)』国立台湾大学土木工学研究所、1988年。
黄世孟 A Study on Characteristics of City Planning in Taiwan during Japanese Colonial Era (1895-1945)、1988。
吳欽賢『日拠時期高雄市都市發展与計画歷程之分析』国立台湾大学土木工学研究所
修士論文、1988年。
- 53) 越沢明著、黄世孟訳『中国東北部都市計画史』台北、大佳出版社、1986年。
越沢明「大連城市規画史(1898～1945年)」『城郷建設訳文集』3号、遼寧省城市建
設研究院、1987年。
越沢明「北京的都市計画」『国立台湾大学建築与城郷研究学報』3巻1郷、1987年。
- 54) 川崎市企画調整局企画部調整課『快適な都市の住環境を求めて —— 川崎市住宅白書
(改訂版)』川崎市、1987年。
- 55) 横浜市都市計画局都市デザイン室『魅力ある都市へ —— 横浜市都市デザイン白書19
89・1983』1989年。
- 56) 広島都市生活研究会編『広島 —— 都市美づくりでの10年、風景の創造へ』広島市企
画調整局文化課。
- 57) 例えば、大阪府企業局『泉北ニュータウンの建設』1986年。
東京都南多摩新都市開発本部『多摩ニュータウン開発の歩み』1987年。
鳥取県土木部都市計画課『都市改造のあゆみ —— よみがえった鳥取駅周辺』1986年。
東京都建設局再開発部『再開発事業誌 —— 西大久保地区』1983年。
- 58) 『土木学会誌』別冊、1990年11月号、特集近代土木の保存と再生。